上演 12

2023 年 8 月 1 日２校目

関東　ブロック（東京都）

東京都立千早高等学校

「フワフワに未熟」

第４７回全国高等学校総合文化祭演劇部門

第６９回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会　担当委員

山口県立長府高等学校（山口県）

幸野　弥菜美

この作品は、千早高校に通う高校１年生の彼女たちが過ごす、日常の劇だった。学校生活や人間関係、女子高生のいろいろが細部まで楽しく描かれていた。それだけでなく、特に女性が抱える社会問題も織り交ぜられ、考えさせられるところもあった。普段は声をひそめて交わすような話題さえも、舞台上で大々的に放つ姿には衝撃を受けた。しかし、それらを大きな声で訴えてくれたことで心が軽くなった人は、少なからずいるのではないだろうか。　テンポ良くかつコミカルに繰り広げられる会話はまさに女子高生そのもので、学校のイスのみというシンプルな舞台装置がさまざまな状況を表現し、一層私たちの日常を連想しやすかった。登場人物たちの楽しそうな空気感は観ているこちらにも伝わり、多くの場面で笑顔になることができた。加えて、場転時に使われる音楽が同じであることも、変わらない日常を表しているように感じた。

私たち女子高生は、毎日が楽しそうで悩みなどない、のようなプラスなイメージを持たれがちだと感じる。ラストの暗い照明の中でイスの上を全員で歩くシーンは、それらを主張できずにいる女子高生の悲痛な叫びのように思えたし、逆に私たちはここまで自分を主張できるのだという強さとも思えた。住んでいる環境が違うのに、同じような悩みや問題を持っていることを知り、味方が居る心強さを感じることができた。そして、高校生は子どもではないが大人にもなりきれないフワフワした未熟な存在であるが、裏を返せば何者にでもなれることにも気づかされた。等身大の姿が、私たちへ悩みに立ち向かう勇気もくれた。

生徒創作だからこそ描くことのできるリアルさに生々しさが感じられ、女子生徒の間では深い共感が得られた。一方で、男子生徒からは非日常的でいまいち共感はできないという意見もあった。世の中ではお互いに性別が先行してイメージを抱いている節はある。演劇を通して知ることで、少しずつでもお互いが変わっていけると良いと思った。